

2025年3月第1四半期決算説明会 主な質疑応答(要旨)

■2025年3月期第1四半期の業績について

Q1: 第1四半期のEBITを分野・要因別に計画対比で上振れ・下振れ要素で分解して教えてほしい。

A1: 収入と費用それぞれ計画対比で▲240億円となった。収入の半分は費用と連動した事業収入で、残り▲120億の内訳は国内旅客が▲100億円、LCCが▲20億円である。費用の半分は収入と連動した事業費用で、残り▲120億の内訳は燃油費で▲90億円、その他共通経費で▲30億円等である。燃油費は、燃油市況が計画よりも下回って推移したことに加えて、激変緩和措置が4月末で終わる計画に対して、5月・6月も継続頂けたため。結果、利益ベースで計画を達成した。

Q2: 第1四半期の国内線の減収・旅客数の減少における主な要因を教えてください。

A2: 時期的な要因もあり、団体の落ち込みに加え、前年はスマイルキャンペーンを実施していたため、前年対比で旅客数の落ち方が▲6%と激しく見える。

Q3: 国際線の方面別のイールドについて、傾向を教えてください。

A3: 需要が強い北米路線は好調で、想定よりも強い結果で推移した。欧州線は全体の需給が戻ってきている事も含め、前年レベルを維持出来ると考えている。また、中国線については、需要回復が進み始めているが、業務需要ではなく観光需要なので、計画対比でイールドが下がってきている。第2四半期の予約状況や発券状況を鑑みると、第1四半期の状況が継続すると考えている。

■2025年3月期第2四半期の見通しについて

Q4: 第2四半期の国内線・国際線の旅客数・単価の見通しについて教えてください。

A4: 国内線は前年対比で旅客数が105%、単価は101%の見通し、国際線は前年対比で旅客数が109%、単価は99%の見通し。

Q5: 前年対比で第1四半期が減益だが、第2四半期が増益となる背景を教えてください。

A5: 国際線で日本発の業務需要がさらに回復していくと見ている。この業務需要については第1四半期ではコロナ前対比60%であり、第2四半期では65%まで回復すると見立てている。従ってこの回復が増益を牽引すると考えている。

■機材について

Q6: 機材のデリバリー遅れ等の影響はあるか。

A6: デリバリーが遅れる可能性があれば、退役を後ろ倒しにすることで、機材繰りを調整し、生産体制を整えている。なお、今年度事業計画に大きな影響を与えうる、デリバリーの遅れは発生していない。

■費用について

Q7: 費用が前年対比15%増加している要因について教えてください。

A7:コスト増加の要因は、諸元が増えていること、世界的な物価高、そして為替の円安であるが、コストコントロールは出来ていると考えている。また、人件費については当社として意思をもって上げており、人的資本投資として考えている。

Q8:費用はどのようにコントロールしていくのか。

A8:第1四半期で抑えた共通経費を引き続きしっかりコントロールしていくことで対応できる。費用だけでなく収入でも対応する。低需要便(お盆期間の逆便など)を狙ってセールを実施するなど、全体的に単価が下がらないように意識しつつ、需要喚起策を打っていく。

以上